

冬みちでの歩行者転倒事故防止に向けた産学官連携による取り組み

ウインターライフ推進協議会

○長沼芳樹((株)構研エンジニアリング), 川瀬良司((株)砂子組), 山本潤史((株)シー・イー・サービス), 富田真未・大川戸貴浩((一社)北海道開発技術センター), 大西功基(北海道開発局 札幌開発建設部 都市圏道路計画課)

ポイントは
砂まき

■目的・背景

協議会の取組の一つとして、冬期の歩行者転倒事故防止のためのつるつる路面への砂まきや、交差点に設置されている砂箱の利用促進のための情報発信などを継続的に行っている。

⇒これらの取り組みを今後も継続的に進めていくためには、活動・運営費の確保が必要!

そこで

国の道路協力団体制度※を活用

企業協力による砂箱を活用した啓発表示と協賛企業等の広告、その収益により、冬期歩行者転倒事故防止のためのつるつる路面への砂まき活動及び普及啓発活動を実施。



※道路協力団体とは・・・(https://www.mlit.go.jp/road/kyoryokudantai/) 道路管理者と連携して業務を行う団体として、法律上位置づけられた団体です。道路における身近な課題の解決や道路利用者のニーズへのきめ細やかな対応などの業務に自発的に取り組む民間団体等を支援することで、その取組を促進し、地域の実情に応じた道路管理の充実を図ろうとするものです。道路協力団体に指定されると、活動のために必要な道路占用等がより柔軟に行えるようになるため、オープンカフェや物販施設等の占用を通じた道路における収益活動が行いやすくなります。道路協力団体は、活動から得られた収益を用いて、道路清掃・植栽等の活動をさらに充実させることができます。

ウインターライフ推進協議会 tsurutsuru.jp

ウインターライフ推進協議会では、積雪寒冷地における冬を安全・安心・快適に過ごすとともに、冬を楽しむための環境づくりを通じて、地域社会へ貢献することを目的に、産学官連携による調査研究、サイトを活用した情報発信、イベントの実施など、様々な取り組みを行っている。

- 普及啓発 パンフレットの作成・配布(多言語対応)、つるつる路面への砂まき、砂まきキャンペーン、小学生を対象とした「雪の授業」の実施、など
- 情報発信 ホームページやSNSを活用した情報提供、「つるつる予報」の配信、取材対応(各種メディアへの情報提供)、など
- 調査研究 雪氷路面調査、冬道転倒事故の現状・分析、など

主な取組

- 協議会発信の「つるつる予報」やリアルタイムの路面状況、気温などを確認し、市内の国道上の横断歩道や周辺の歩道などに、協議会メンバーでつるつる路面への砂まきを実施。



①滑る路面(つるつる路面)に砂を撒きます。

つるつる予報などを観ながら、「明日は滑る!今晚は滑る!」と思ったら出動。

②砂まき活動を記録するため、活動報告用のフォームを作成。砂を撒いた後と、場所などがわかる画像を投稿します。→事務局で運営・管理し、国道・場所、画像を整理



- 冬道転倒の注意喚起と、つるつる路面への砂まきを勧める啓発表示付の企業広告物(ステッカー)を作成し、対象箇所の砂箱に貼り、普及啓発を実施。
- 毎年、協力企業を募集。ステッカーを貼る砂箱の希望位置と数を確認し、協議会でデザインを統一して作成。道路占用許可申請を提出し、一斉に実施。

【時期】12月上旬～3月末頃まで
(砂箱設置期間*積雪期)

【R5年度実績】
札幌市内の32カ所の砂箱で、全5社からの協力により実施

企業協力による収入を活用し、札幌市内の交差点や歩道等へのつるつる路面へ砂まきを実施

1 つるつる路面への砂まき

- ★活動費を確保できたことで、まきたい場所(つるつる路面)まで出向くための交通費となり、個人の負担軽減へ繋がった。費用のことを気にせず、気軽に行きやすくなった。
- ★活動報告用フォームを活用したことで、報告もまとめやすく、情報を共有しやすくなった。
- ★メンバーで砂をまく機会が増えたことで、砂箱の利便性(使いやすさなど)について、改めて考えるきっかけになった。

収入を活用

2 安全に資する啓発表示と協賛企業等の砂箱広告

企業協力による収入により、砂箱広告(普及啓発ステッカー)を作成

②砂箱にステッカーを貼る。各社が希望した砂箱に、ステッカーを貼り、誰でも自由に撒いてもらえるよう普及啓発を行う。



①砂箱に貼るためのステッカーを作成。上段が基本デザイン、下段(白枠)に企業名やロゴ、コメントを入れられるようにし、協力していることがわかるよう、企業側のメリットも考えたデザインとした。

企業協力による収入を活用し、広報物の作成・配布、普及啓発イベント等の実施

3 普及啓発活動の実施

- 市内各所にて「冬みちガイド」パンフレットを配布。紙面には、砂箱の利用方法、砂のまき方を紹介。【配布箇所】市内ホテル、観光案内所、他
- 市民及び観光客に向けた普及啓発イベントの実施や、砂箱利用促進のためのサイトページを作成。

★サイト内に新しいコンテンツを増やしたり、イベントの実施など、協議会全体の活動に広がりが持った。

★実施期間中、協議会運営サイトで企業皆様に協力いただいていることが分かるよう、名称をTOP頁に表示。サイトを見た他の企業や団体が、協議会の取組に賛同いただき、協力企業が増えることに繋がった。



観光客が多く集まる場所として市内ホテルの他のパンフレットとあわせて配布。多言語(英語・中国・ハンガリー)も作成し、好評。



●書店の店舗前のスペースにて、雪道での歩行者転倒事故の現状や転ばないためのコツ、砂箱の利用促進について講演。冬・雪水に関する興味・関心を深めてもらえるよう、冬・雪をテーマにしたコンサートや朗読など、市民及び観光客へ広く周知するためのイベントを行った。



▲協議会メンバーや知人から収集した北海道の砂箱を集めた写真館。興味を持ってもらうためのきっかけづくりになっている。

取組の成果

- 安定した収入があることにより、毎年の活動計画が立てやすくなった。
- 協議会会員で取り組む内容を検討し、新たな取り組みに挑戦できた。

今後に向けて

- 今後も継続的して、「砂まき活動」「砂箱利用促進」を行う。
- 企業協力は、協賛的な位置づけにならないよう、企業側にとってもメリットとなるような広報等を行う。
- 雪道知らない人などへ、テレビや新聞など、目にする機会が多い「メディア」をうまく活用し、「滑ること」を知ってもらうきっかけを検討する。
- 「冬を安心・安全」と「快適に過ごす」ことの視点と合わせて、転倒事故防止に向けた活動の充実を図っていく。

